


2018年3月期 第3四半期決算概要



日進工具株式会社

2018年1月31日
(証券コード6157)

目次

1. 2018年3月期3Qの業績	P. 3	・・・	第3四半期決算の概要
	P. 4	・・・	営業利益の増加要因
	P. 5	・・・	損益計算書サマリー
	P. 6	・・・	貸借対照表サマリー
	P. 7	・・・	四半期業績推移
<hr/>			
2. 2018年3月期の業績見通し	P.14	・・・	業績見通し
	P.15	・・・	配当予想
<hr/>			
< 参考資料 >	P.17	・・・	過去5年間の業績と 主要データ推移
	P.18	・・・	投資指標
	P.19	・・・	株価推移とバリュエーション
	P.20	・・・	I R 情報サイトのご案内
<hr/>			

**2018年3月期
第3四半期の業績**



第3四半期決算の概要

売上高経常利益率は27.6%と高い水準

(百万円)

	2017年3月期 3Q累計	2018年3月期 3Q累計	通期予想	進捗率
売上高	6,593 (+4.2%)	7,245 (+9.9%)	9,550 (+8.2%)	75.9%
営業利益	1,578 (+5.4%)	1,983 (+25.6%)	2,500 (+24.2%)	79.3%
経常利益	1,577 (+2.8%)	2,002 (+26.9%)	2,530 (+24.9%)	79.1%
四半期純利益	1,069 (+4.7%)	1,425 (+33.3%)	1,750 (+23.2%)	81.4%

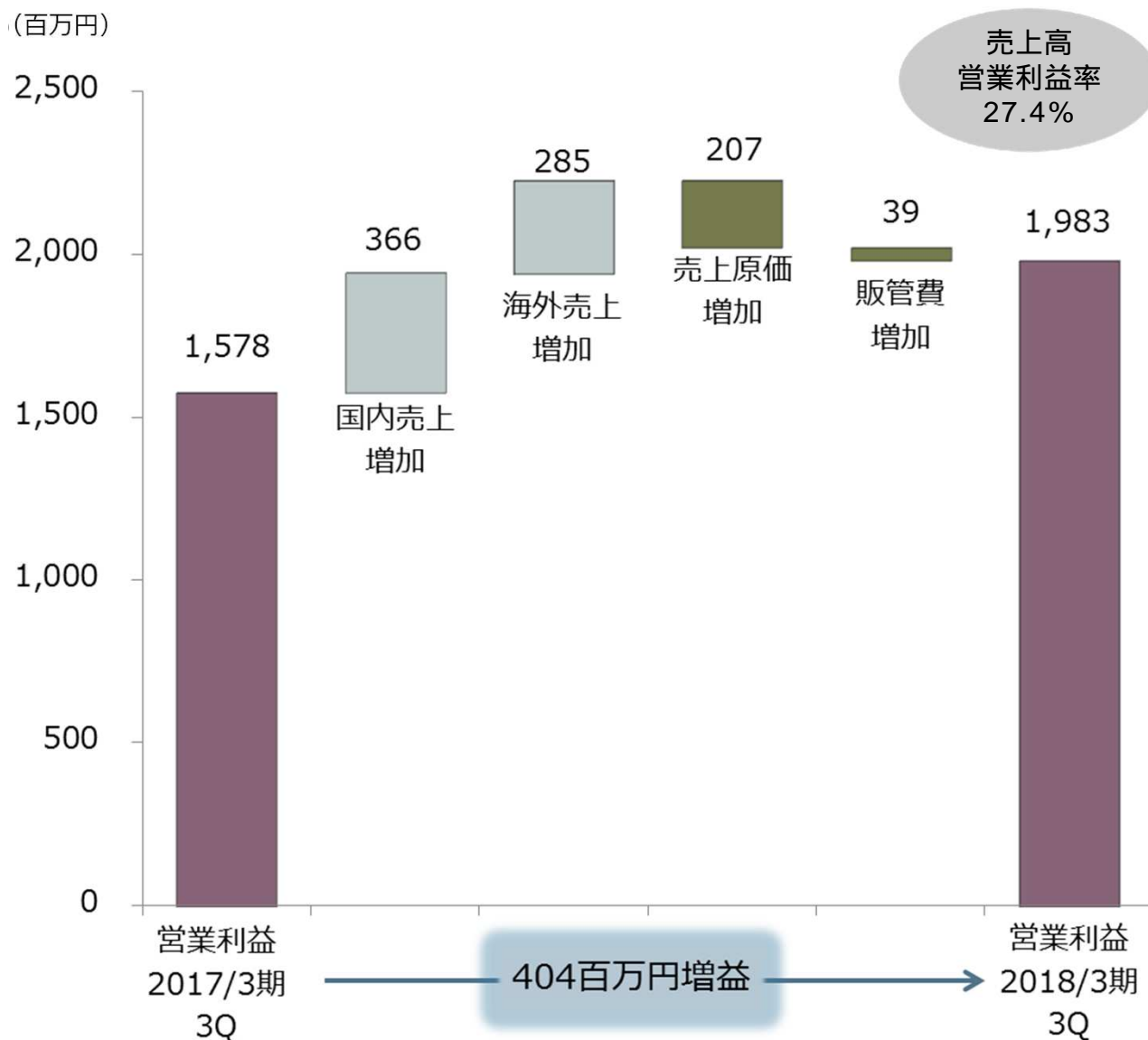
()内は前年同期比増減率

自動車関連は、2017年の国内新車販売が前年比5.3%増となる等総じて底堅く推移したほか、輸出も持ち直す動きとなった。また、電子部品・デバイス関連も、新型スマートフォン向けやITサイクルの改善等から堅調が続いたほか、増産や人手不足に対応するための設備需要から、半導体製造装置や一般機械、ロボット関連等も活況となり、超硬小径エンドミルの需要は順調に推移した。

このような環境のなか、第3四半期累計の連結売上高は前年同期比9.9%増の7,245百万円、連結経常利益も同26.9%増の2,002百万円と増収増益。

売上高経常利益率は27.6%となり、前年同期から3.7ポイント上昇した。

営業利益の増加要因



国内売上高は前年同期比366百万円、7.3%の増加、また、海外売上高は同285百万円、18.0%増加となった。なお売上高全体では651百万円、9.9%の増加であった。

651百万円の売上高増加に対して、売上原価が207百万円、7.1%の増加に止まったため、売上総利益は444百万円、12.1%の増加となった。

販管費は39百万円、1.9%の増加に止まったため、営業利益は404百万円、25.6%増加した。売上高営業利益率は3.5ポイント上昇の27.4%。

損益計算書サマリー

(百万円)

	2017年3月期 3Q累計	2018年3月期 3Q累計	前年同期比	コメント
売上高	6,593	7,245	+9.9%	省エネや自動運転化の進む自動車関連、高機能スマートフォンやAI・ビッグデータ、IoTに絡む半導体や電子部品といった需要先の好調から、国内外ともに順調に推移。
売上総利益 (率)	3,660 (55.5%)	4,104 (56.6%)	+12.1%	生産数量の増加と自動化継続の効果等により、売上総利益率は前年同期比1.1ポイント上昇。
販管費 (率)	2,081 (31.6%)	2,121 (29.3%)	+1.9%	人員の増強やブランディング施策の継続等から1.9%増加したものの、販管費比率は29.3%へ低下。
営業利益 (率)	1,578 (23.9%)	1,983 (27.4%)	+25.6%	売上総利益率の向上と販管費比率の抑制により、売上高営業利益率は27.4%と3.5ポイント上昇。
経常利益 (率)	1,577 (23.9%)	2,002 (27.6%)	+26.9%	前年同期に発生した為替差損(19百万円)が当期はほぼ無かったため、営業利益を上回る前年同期比26.9%増。
四半期純利益 (率)	1,069 (16.2%)	1,425 (19.7%)	+33.3%	
設備投資額	565	470	-16.8%	今期の予定は713百万円、第4四半期での導入予定が多い。
減価償却費	460	460	-0.0%	当期の新規設備が多くないため、前年同期と同水準。
従業員数	314人	331人	+5.4%	新卒者に加え、人員強化のため各部門で中途採用を実施。

()は売上高に対する比率

貸借対照表サマリー

(百万円)

	2017年 3月期	構成比	2018年 3月期3Q	構成比	前期比
(資産の部)					
流動資産	7,971	63.7%	8,981	66.9%	+12.7%
現金及び預金	4,659	37.2%	5,574	41.5%	+19.6%
受取手形及び売掛金	1,422	11.4%	1,472	11.0%	+3.6%
棚卸資産	1,592	12.7%	1,623	12.1%	+1.9%
固定資産	4,546	36.3%	4,453	33.1%	-2.0%
有形固定資産	4,047	32.3%	3,982	29.6%	-1.6%
無形固定資産	118	0.9%	146	1.1%	+23.8%
投資その他の資産	380	3.0%	325	2.4%	-14.6%
資産合計	12,517	100.0%	13,434	100.0%	+7.3%
(負債の部)					
流動負債	1,354	10.8%	1,412	10.5%	+4.2%
買掛金	230	1.8%	238	1.8%	+3.5%
固定負債	495	4.0%	497	3.7%	+0.4%
負債合計	1,850	14.8%	1,910	14.2%	+3.2%
(純資産の部)					
純資産合計	10,666	85.2%	11,524	85.8%	+8.0%
負債・純資産合計	12,517	100.0%	13,434	100.0%	+7.3%

流動資産は、前四半期の保険金受取もあり現預金等が増加したことや、売上げに伴う売掛金の増加等から前年度末比12.7%増加。

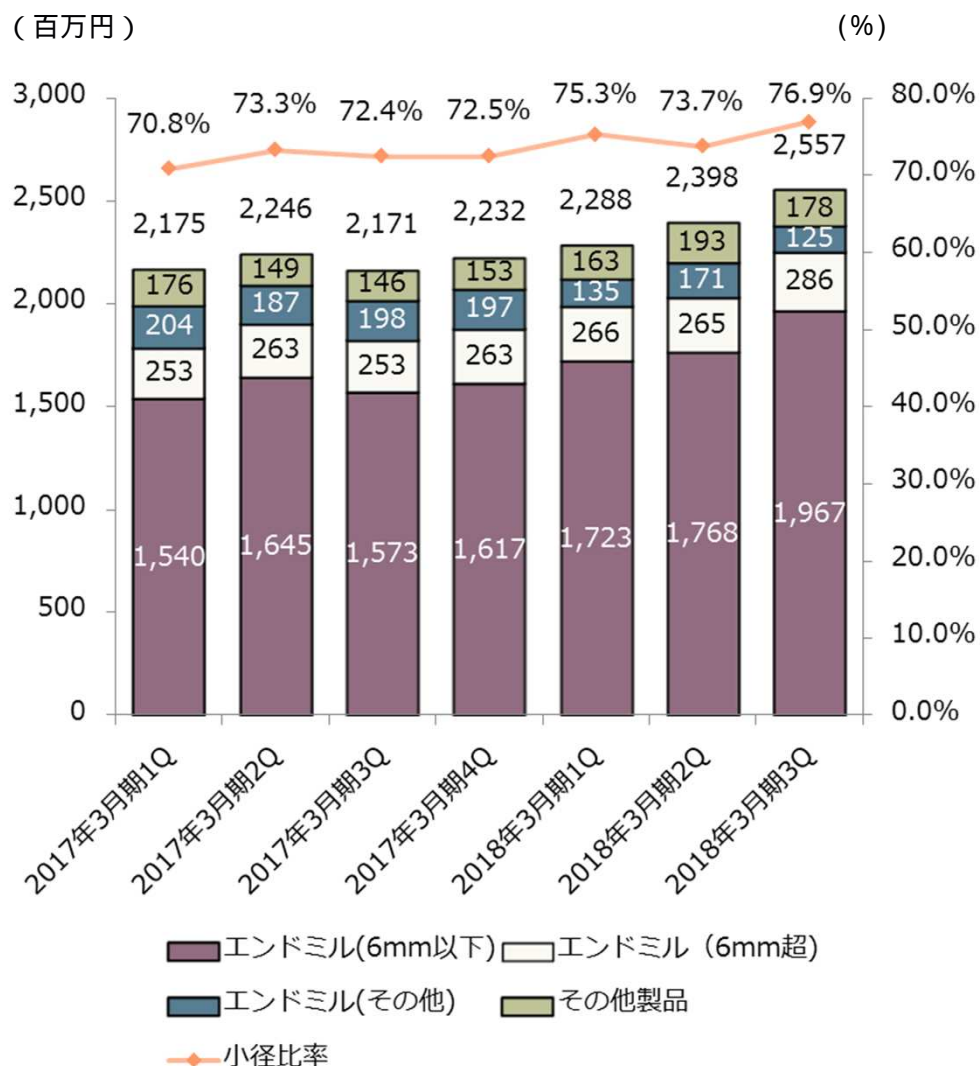
固定資産は、前四半期に今後の仙台工場・開発センターの拡大に備え行った、賃貸倉庫の減損（64百万円）の影響もあり同2.0%減少。

負債は、役員退職慰労引当金の増加等により同3.2%増加。

純資産は、利益剰余金の増加等から同8.0%増加、自己資本比率は85.8%となり同0.6ポイント上昇。

四半期業績推移（売上高の推移 製品別）

製品別売上高と小径比率の推移



自動車関連向け、電子部品・デバイス向けを中心に堅調な需要環境が続き、四半期売上高は2,557百万円と3四半期連続で過去最高を更新。

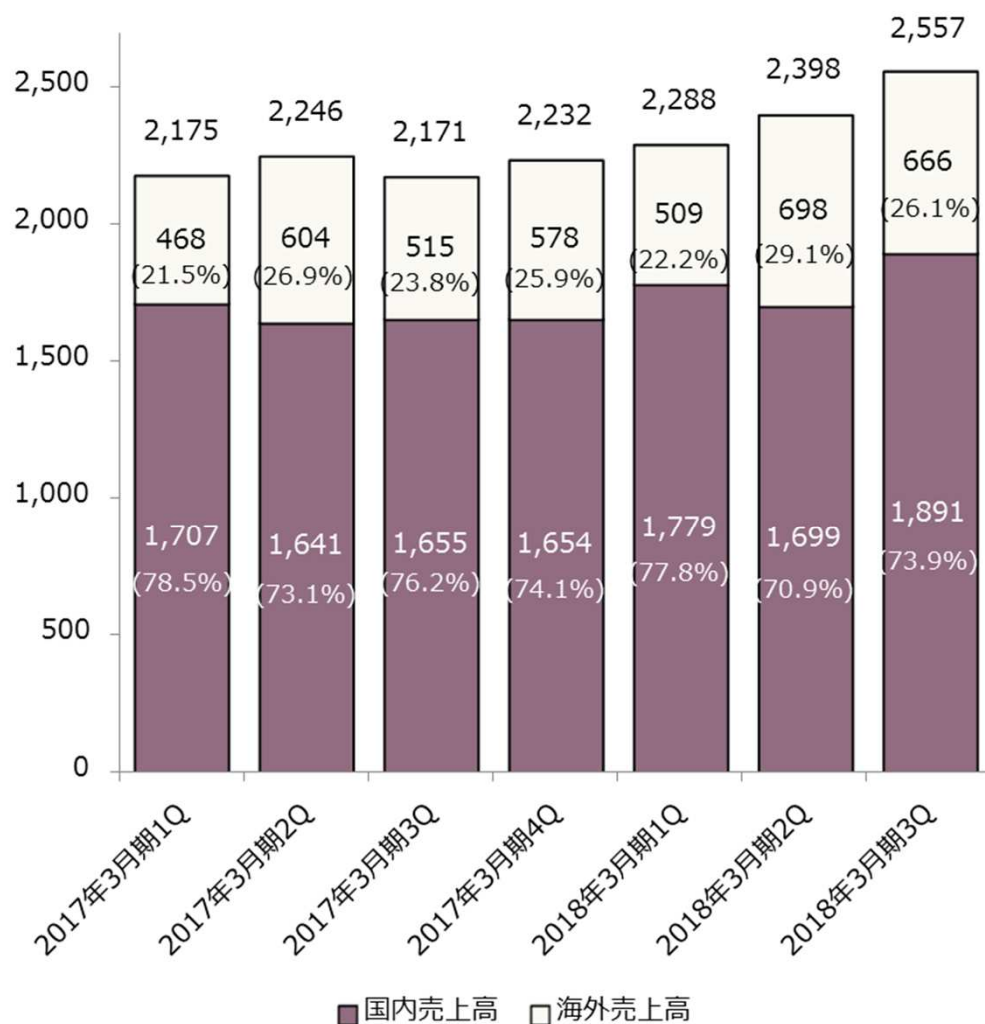
製品別では、主力の「エンドミル(6mm以下)」がCBN製品等の増加もあり、前年同期比+25.1%、前四半期比でも+11.3%と大きく伸びた。一方、特殊品等の「エンドミル(その他)」は減少傾向。また工具ケース等の「その他製品」は前四半期に比べ減少となったが、水準としては高水準を維持した。

小径比率は76.9%と高水準。

四半期業績推移（売上高の推移 国内・海外）

国内・海外売上高の推移

（百万円）



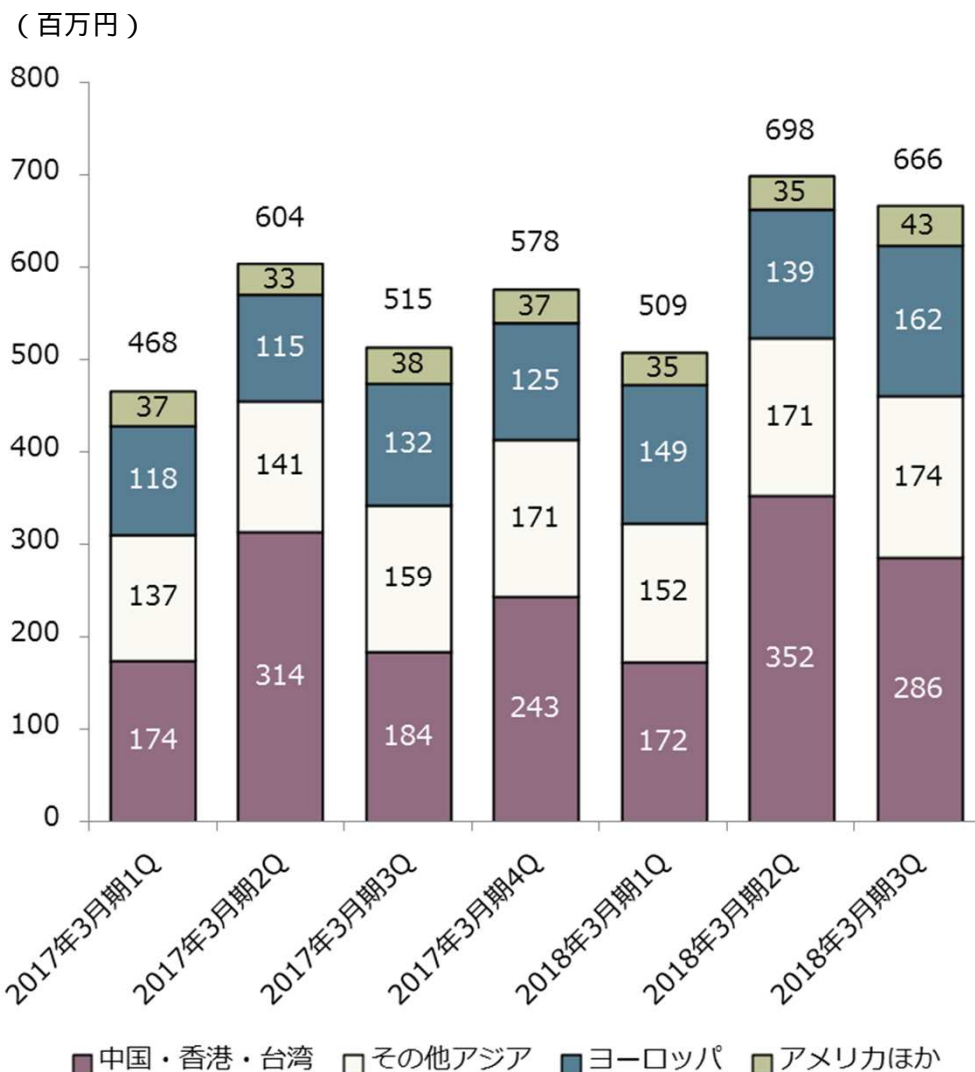
海外売上高は、前四半期に比べ4.5%の減少となったものの、前年同期比では29.3%の増加となる666百万円。影響の大きいスマートフォン関連の中国向けが、例年4-6月をピークにその後減少するため、日進工具香港の連結決算組入れのタイムラグ(3ヶ月のズレ)によりこのような動きとなっている。

国内売上高は、前年同期比14.2%増加の1,891百万円。車載向け電子部品を含む自動車関連の需要に下支えされたほか、半導体や電子部品関連に加え受注が高水準となっている機械関連やロボット向けの需要もあったのではないかとみられる。

海外売上比率は、特殊要因のある前四半期に比べ低下したものの、26.1%と高水準。

四半期業績推移（売上高の推移 海外地域別）

海外地域別売上高の推移



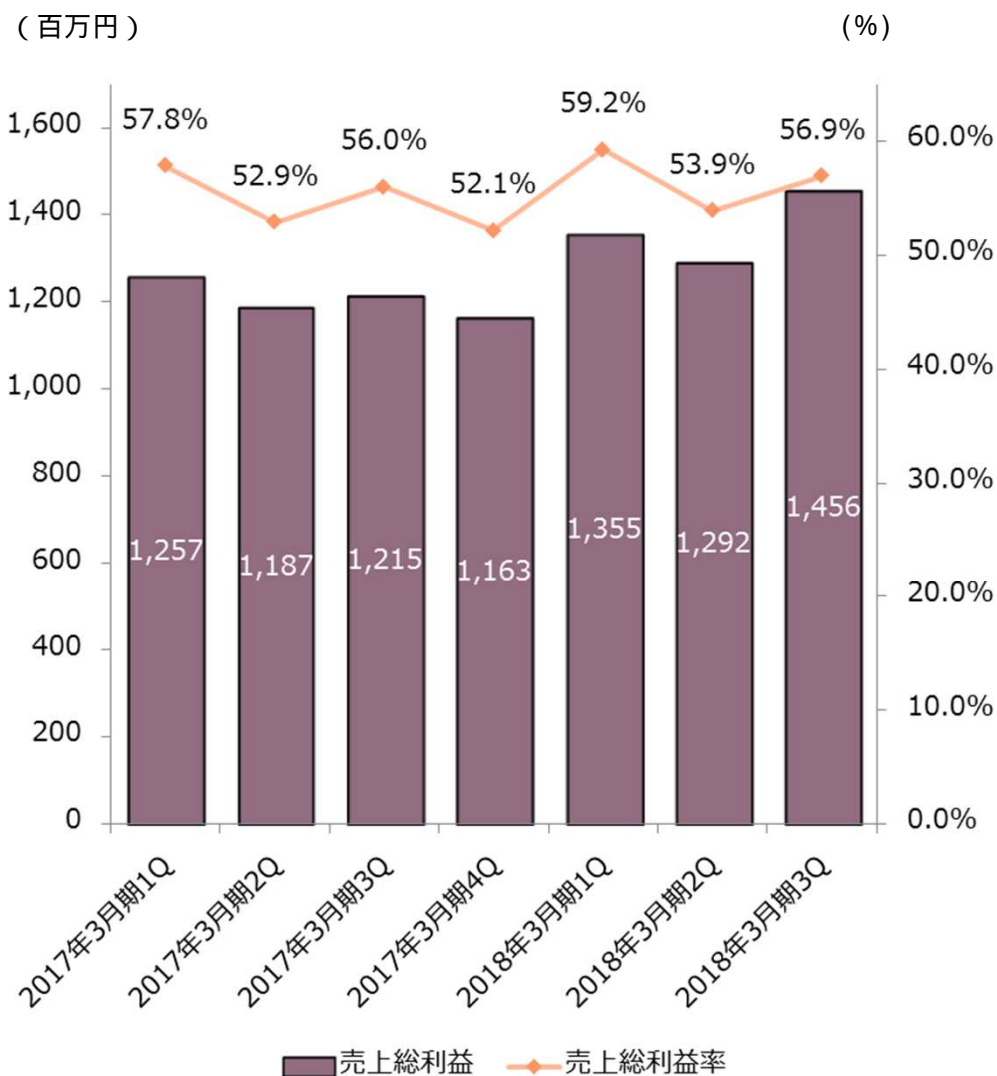
海外の地域別売上高では、前四半期に比べヨーロッパが若干増加したものの、その他アジア（東南アジア）は横ばい圏となっている。なお、中国・香港・台湾は全期間にわたり変動が大きくなっている。

中国・香港・台湾は、前年同期比では54.9%増と大きく伸びたが、前四半期比では18.7%の減少。同地域はスマートフォン向けのウェイトが高く、季節的な変動が大きいことによる。ただし、前年度に比べると減少幅が小さくなっている。これはいわゆるローカルスマホの高機能化に伴い、大手米国メーカー以外での需要が出てきたことに加え、スマートフォン以外のIT機器向けでの使用も広がってきていると考えられる。

その他アジアは、タイを中心とした自動車関連や家電・精密機器向けがメインとなるが、まずまずの水準を維持。ヨーロッパは徐々に増えつつある一方、アメリカほかは絶対量が少ない状況が続いている。

四半期業績推移（売上総利益の推移）

売上総利益と売上総利益率の推移



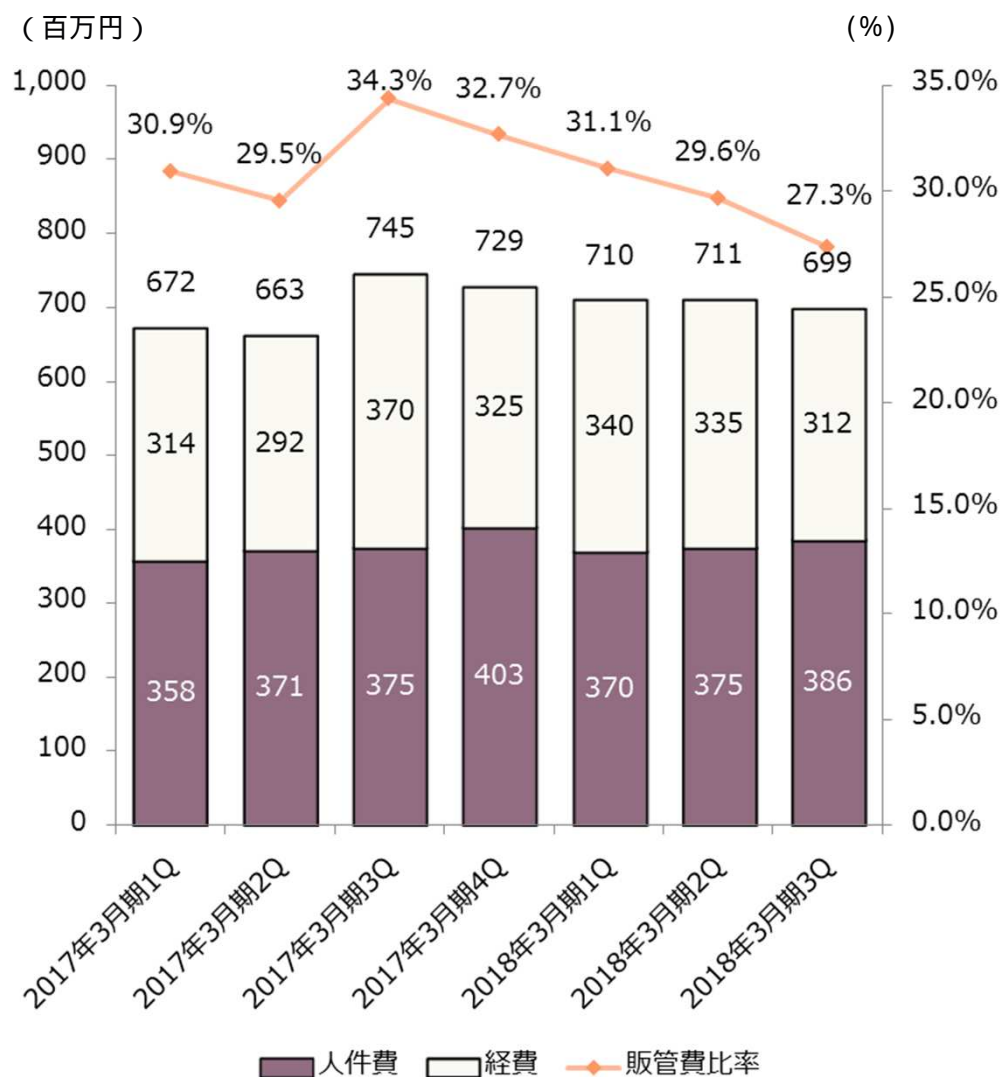
売上総利益は、前年同期に比べて19.8%増加の1,456百万円となり、四半期ベースでの最高を更新。売上総利益率も56.9%と、第1四半期には及ばなかったものの、高い水準となった。

増産効果に加え、自社開発機による自動化の推進等が寄与している。

なお、連結における四半期ごとの推移は、決算時期が異なる日進工具香港の加算・減算の影響により、会計上の数値が振れる傾向がある。

四半期業績推移（販管費の推移）

販管費と販管費比率の推移



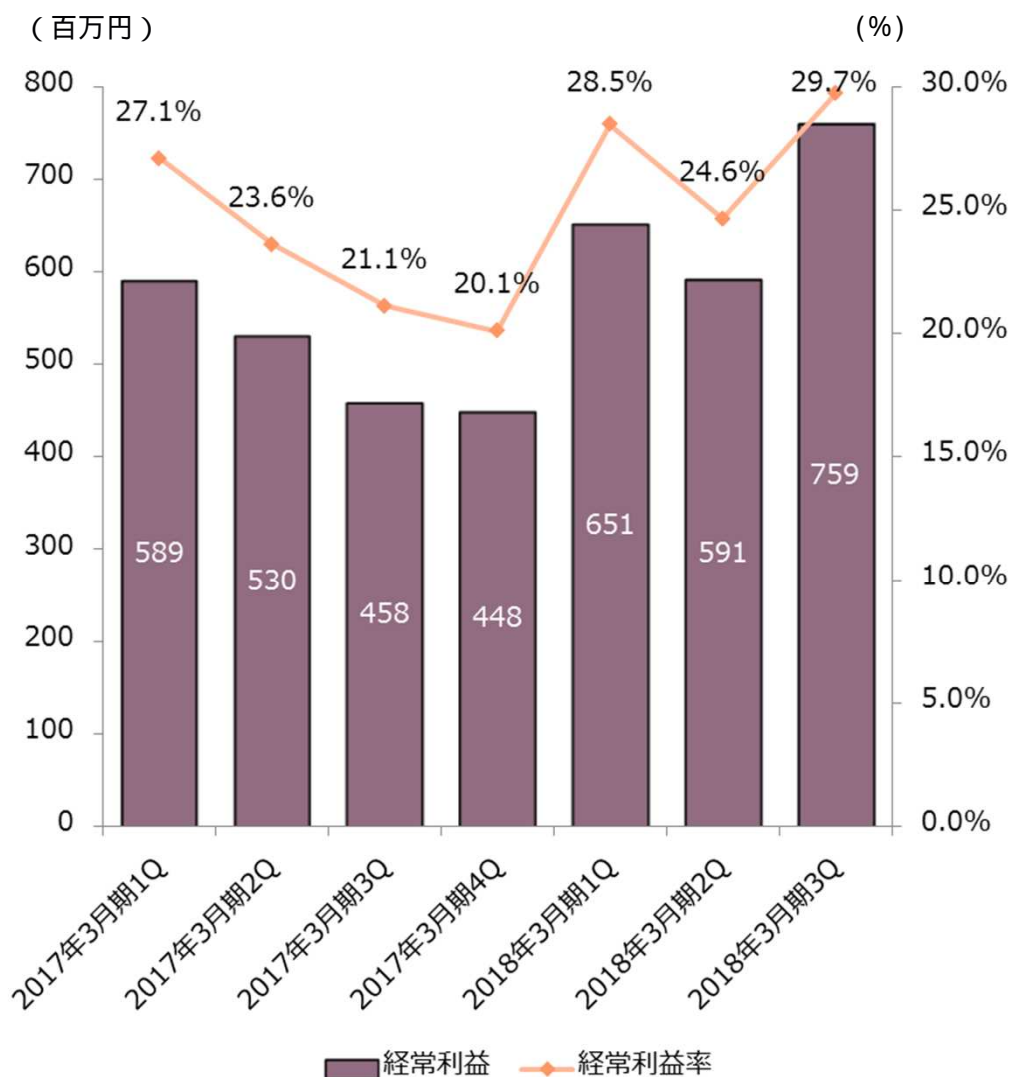
販管費は、人員強化は行っているものの、当四半期において大きな展示会等が無かったことから、699百万円と5四半期ぶりに700百万円を下回った。

人件費は前年同期及び前四半期に比べ若干の増加となったが、一般経費は前年同期比で15.5%減少した。前年同期にあったJIMTOF(日本最大の工作機械関係の展示会)やカタログの改訂が無かったことによる。なお、2年に1度開催されるEMO(欧州での展示会)の費用は前四半期で計上している。

売上高の増加もあり、販管費比率は27.3%と、4四半期連続での低下となった。

四半期業績推移（経常利益の推移）

経常利益と売上高経常利益率の推移



経常利益は759百万円となり、前年同期に比べ65.9%増加した。売上高経常利益率も29.7%と8.6ポイント向上。

売上高が前年同期比で17.8%増加したことに加え、増産効果等から売上総利益率が56.9%と高水準を維持。一方、販管費比率は大きな支出等が無かったことから27.3%に低下し、経常利益の拡大に繋がった。

2018年3月期の業績見通し



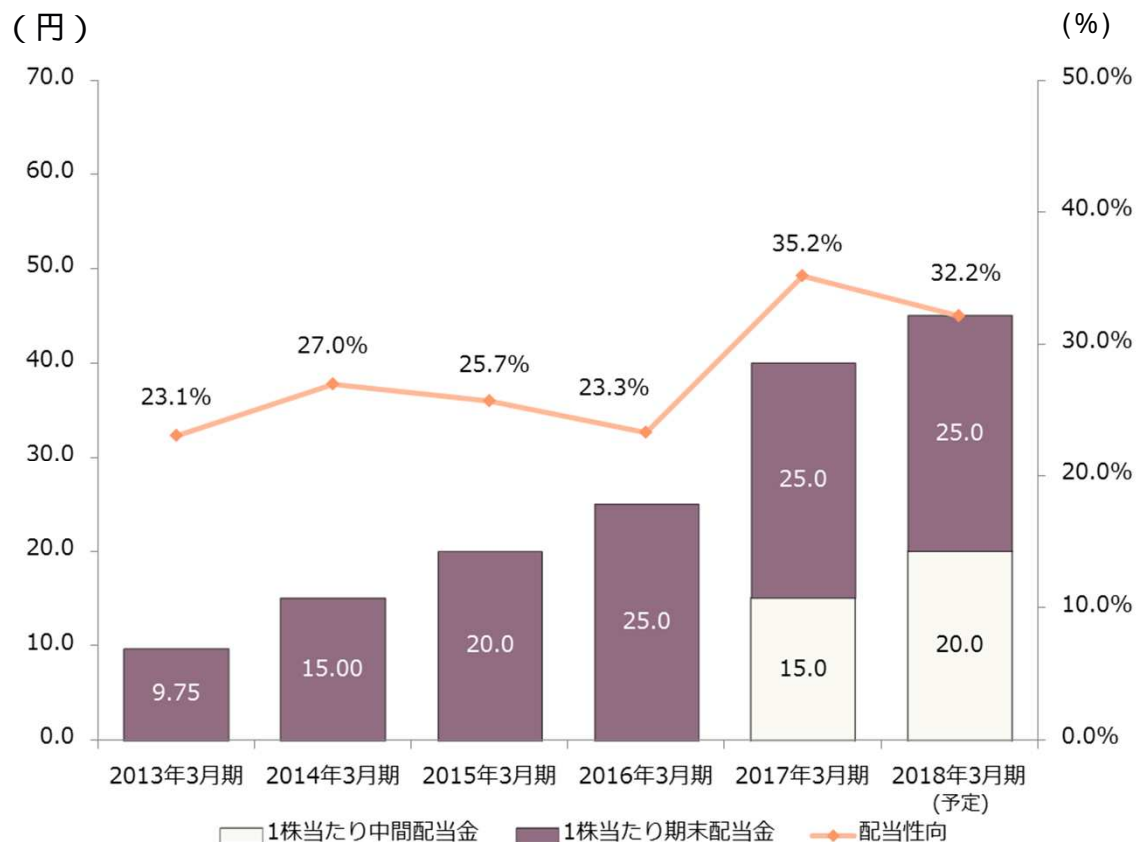
業績見通し

(百万円)

	2017年3月期 実績	2018年3月期 予想	前期比	コメント
売上高	8,825	9,550	+8.2%	国内販売が底堅く推移し輸出も持ち直している自動車関連や、新型スマートフォン向けやITサイクルの改善が進む電子部品・デバイス関連を中心に、堅調な需要が続くと予想。
営業利益	2,013	2,500	+24.2%	生産量の増加に伴う設備稼働率の向上や、小径サイズ及び高付加価値製品の販売増加等により増益を見込む。
経常利益	2,026	2,530	+24.9%	同上
当期純利益	1,420	1,750	+23.2%	同上
設備投資額	774	713	-7.9%	主に生産機械設備の導入によるもの。今期は特別な設備投資の予定はない。
減価償却費	632	619	-2.1%	ほぼ例年通りの設備投資の水準となるため、減価償却費は横ばいの水準を想定。
EPS	113.63円	139.96円	+23.2%	
1株当り配当金	40円	45円	12.5%	株主還元強化の一環として、前期の記念配当を含めた水準を継続。

2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

配当予想（株主還元について）



2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

業績に応じた利益還元

- 2017年3月期の1株当たり年間配当金は40円
 中間配当は15円
 期末配当は25円（普通配当20円、記念配当5円）
2016年12月支払の中間配当金についても2017年1月1日付の株式分割の影響を考慮しています。
- 2017年3月31日より株主優待を実施
 毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載された1单元（100株）以上を保有する株主様を対象にオリジナルクオカード1,000円分を贈呈
- 2018年3月期の1株当たり年間配当金は45円を予定
 中間配当は20円
 期末配当は25円（普通配当20円、記念配当5円）
 業績予想に対する配当性向は32.2%

自社株買いではなく
配当にウェートを置く方針

< 参考資料 >



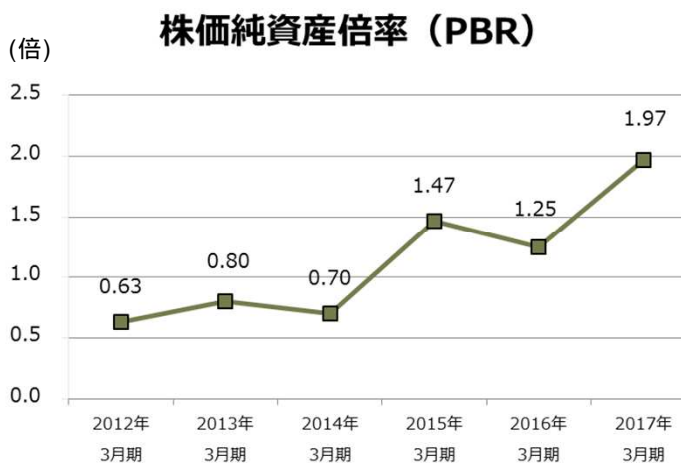
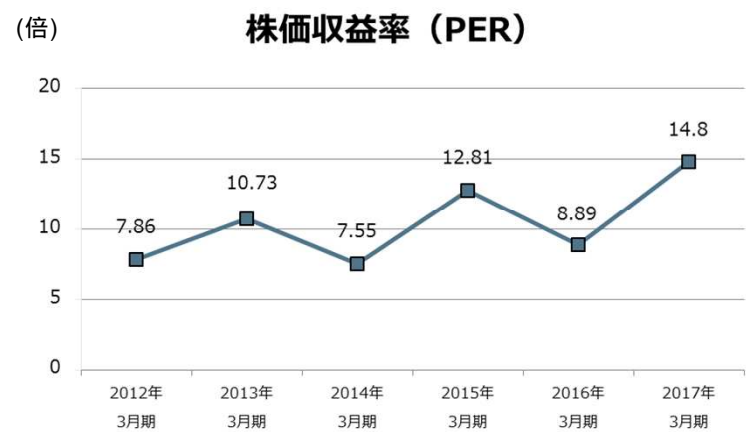
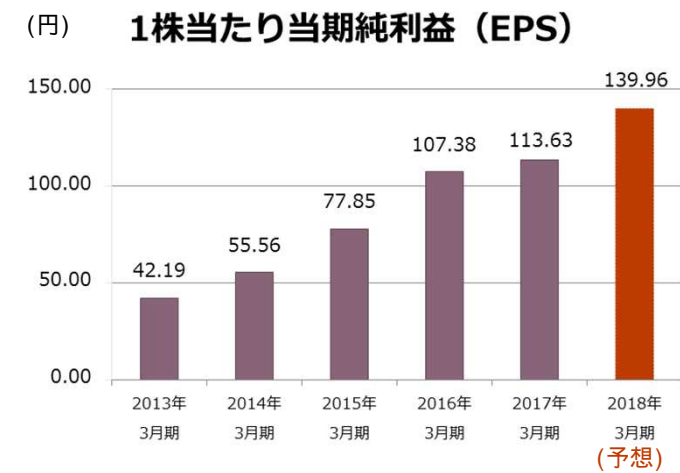
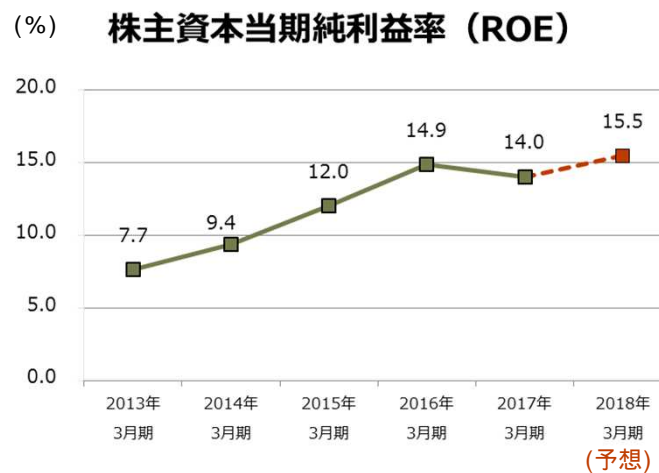
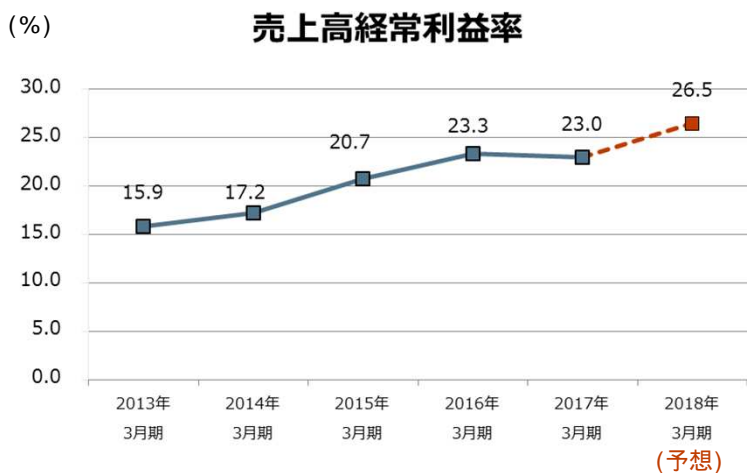
過去5年間の業績と主要データ推移

(百万円)

	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期
売上高	5,997	6,418	7,402	8,382	8,825
営業利益(率)	921 (15.4%)	1,069 (16.7%)	1,481 (20.0%)	1,914 (22.8%)	2,013 (22.8%)
経常利益(率)	951 (15.9%)	1,107 (17.2%)	1,534 (20.7%)	1,954 (23.3%)	2,026 (23.0%)
当期純利益(率)	527 (8.8%)	694 (10.8%)	973 (13.1%)	1,342 (16.0%)	1,420 (16.1%)
有利子負債額					
純資産額	7,106	7,680	8,480	9,569	10,666
総資産額	8,297	9,075	10,339	11,371	12,517
自己資本比率	85.6%	84.6%	82.0%	84.2%	85.2%
設備投資額	1,001	469	612	1,295	774
減価償却費	563	534	474	505	632
1株当たり配当金	9.75円	15円	20円	25円	40円
従業員数	281人	284人	281人	280人	322人

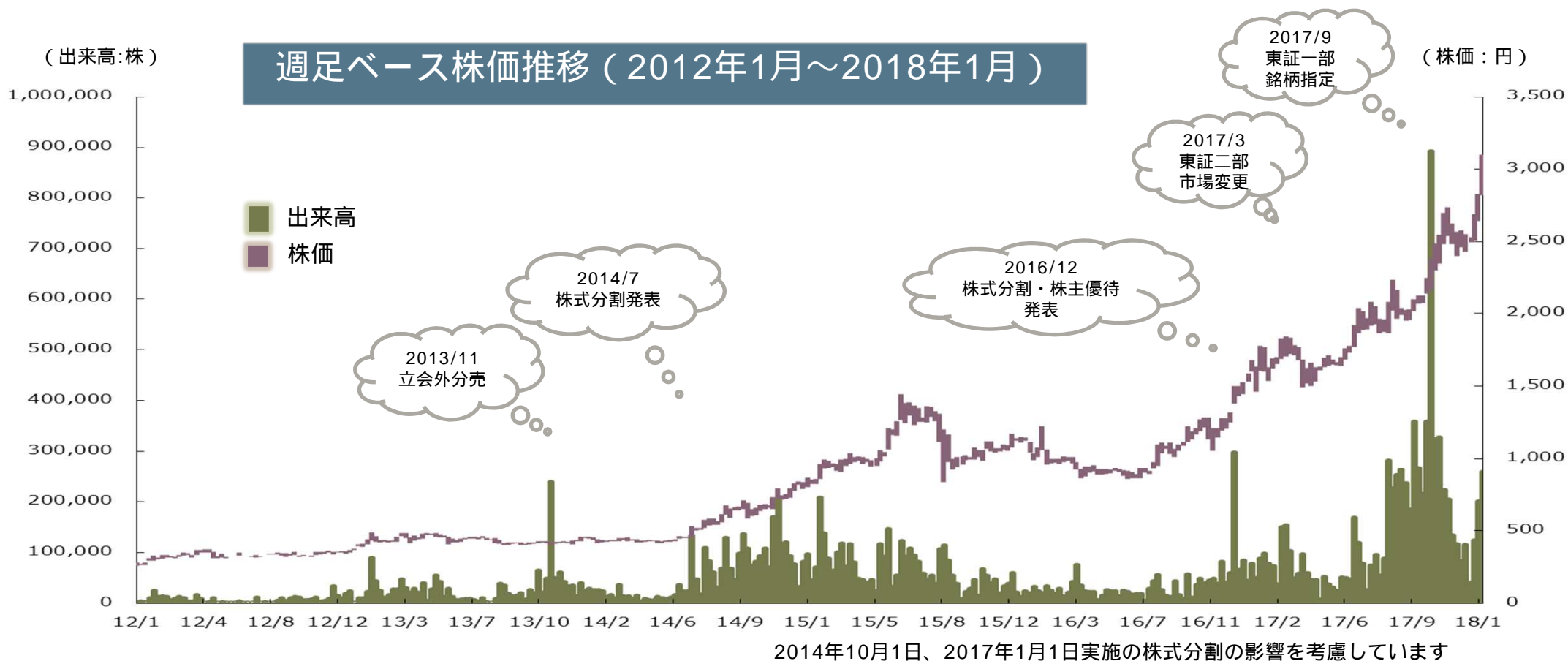
2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

投資指標



2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

株価推移とバリュエーション



バリュエーション (2018年1月26日現在)

売買単位：100株

時価総額：276億円

ROE (17/3期実績)：14.0%

単元株価格：30万1,500円

PER (18/3期予想)：21.54倍

PBR (17/3期実績)：3.53倍

IR情報サイトのご案内

IRトピックス

最新のIR活動に関する話題を掲載しています

メニュー項目

「+」をクリックいただくと各カテゴリーのメニューが表示されます
現在閲覧中の項目はオレンジ色でハイライト表示となります

IRニュース

有価証券報告書や決算短信など適時開示情報に関するニュースはこちらで確認いただけます

URL : <http://www.ns-tool.com/ir/>

当社に関する一層の理解を深めていただくためにも是非ご活用ください

お問い合わせ

日進工具株式会社

執行役員管理部長	田島 寛
管理部経理課課長	今関 弘毅
管理部 I R 担当	松尾 友紀子

TEL : 03-3763-5672
FAX : 03-3764-8225
E-mail : ir@ns-tool.com

(注) 将来予想に関する記述については、目標や予測に基づいており、
確約や保証を与えるものではありません。
予想と異なることがある点を認識された上でご利用ください。